OPP シートが中学校の体育授業に与える学習効果の検討

岩崎　紘乃（群馬大学）

１．目的

本研究では、中学生２年生の集団マット単元９時間を対象に、技能の達成度を自己評価するメーターを取り入れた OPP シートを活用することで、OPP シートが中学校の体育授業に与える学習効果を明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

堀(2019)の OPP シートの基本的構造「単元タイトル」「学習前後の本質的な問い」「学習履歴」「学習後の自己評価」の４つに、三本･大庭(2022)の児童が主観的に技能の達成度を評価する「できたメーター」を参考に「ゴールにどのくらい近づいたかのメーター」(5 点満点)を追加した。なお、この OPP シートは ICT 上で入力することにした。

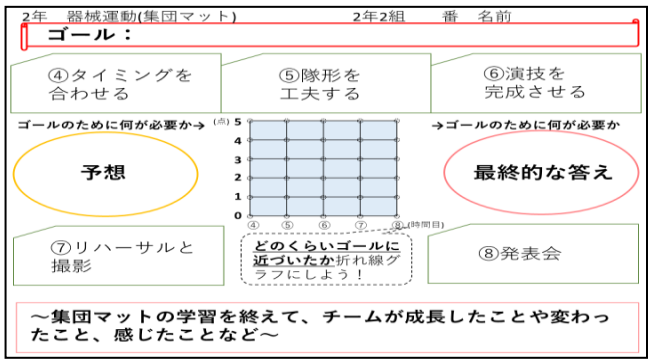

図１　OPP シート

１）対象者：中学２年生(67 名)

２）調査方法：令和４年９月 26 日～10 月 21 日

３）分析方法：

①「学習履歴」: KHCoder を用いて、各時間の頻出語の抽出と、共起ネットワーク図を作成した。

②学習前後の「本質的な問い」:生徒が書いた文を「A. 技能　B. タイミングや技能　C. 工夫　D. 仲間との協力　E. 楽しむ　F. その他」の６つの観点で種類分けし、それぞれの数をカウントした。

③「ゴールにどのくらい近づいたかのメーター」: 各時間ごとの平均点を算出し、グラフ化した。

３．結果と考察

１）単元前半は技能に関する語が多く見られたが、単元中盤は演技をより良くするための工夫や考えに関する語が新たに出現した。単元後半は「チーム」などの肯定的な語の出現回数が増えたことから、集団マットの楽しさを感じることができた生徒が増えたと考えられる。

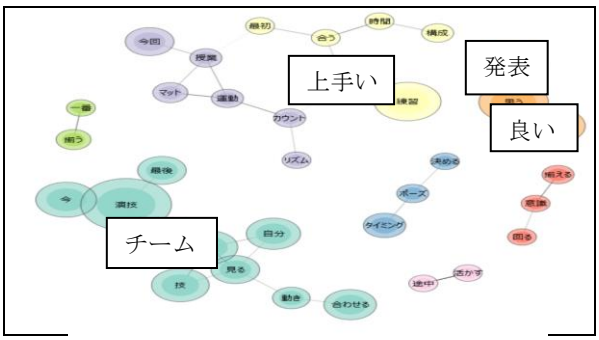

図２　９時間目の共起ネットワーク図

２）学習前の予想に関する記述は様々であったが、学習後は多くの生徒が、技能よりも協力や工夫に必要性を感じ、記述内容の散らばりが小さくなった。

表１　「本質的な問い」の各観点のカウント数

	A	B	C	D	E	F
学習前	57	27	20	32	4	22
学習後	14	36	22	35	7	4

３）毎時間、前時の平均点を上回った。授業を重ねるにつれて、自分のがんばり度を自己認知していた生徒が多かったと考えられる。

４．結論

本研究において、生徒自身が主観的に自分のがんばり度を評価するメーターを取り入れた OPP シートを用いることで、生徒の思考の変容の様子を読み取ることができた。また、生徒自身も自己の変容を認識することができる可能性が示唆された。

５．主な参考文献

１）堀哲夫(2019)新訂　一枚ポートフォリオ評価 OPPA　一枚の用紙の可能性.東洋館出版社:東京.